



## 世界に繋がる ～2度目の東京オリンピック～

吉田 一誠  
Yoshida Issei

名古屋YMCA会員  
名古屋グランパスW杯会長  
元学校法人名古屋YMCA学園副理事長  
元名古屋YMCAリーダー会会長

### ▼YMCAとの出会い

YMCAとの出会いは中学生のときです。偶然YMCAの近くに引っ越してきて、中学校で英語の授業が始まるので、母親の勧めでYMCAとの英語学校へ通い始めました。当時の名古屋YMCAには、少年部というグループ活動がありました。少年部の部屋にはゲームや卓球台があり、同世代の仲間がいつもおり、気がついたら英語学校そっちのけで少年部の部屋に入り浸っていました。その年の夏のキャンプに誘われて参加した根の上高原のキャンプがYMCAキャンプとの出会いです。戦後7、8年たった頃で、社会もまだ落ち着かない状況でした。学校の課外活動も盛んではなく、中高生の居場所が少ない当時の社会情勢の中で、YMCAの少年部との出会いがあったのは幸運だったと思います。

はじめて参加した根の上高原の中高生のキャンプでは、男兄弟がいなかったこともあり様々な刺激が多く、さらには勇敢な女子も多かった印象です。飯盒炊爨、キャンプファイヤー、きもだめし、スタンツナイトなどを行いました。特に印象に残っているのは、キャンプ場内の広場でラグビーをして、大きな身体の人に投げ飛ばされたことです。年齢が異なる仲間7、8人とキャビンに泊まり、夜襲をしたことも覚えています。隣のキャビンのメンバーにバケツいっぱいの水をかけにいたり、朝起きてキャビンの外に出られないようにドアをロープで結んだり、様々なイタズラも今となっては良い思い出です。

## ▼リーダー時代の大きな体験

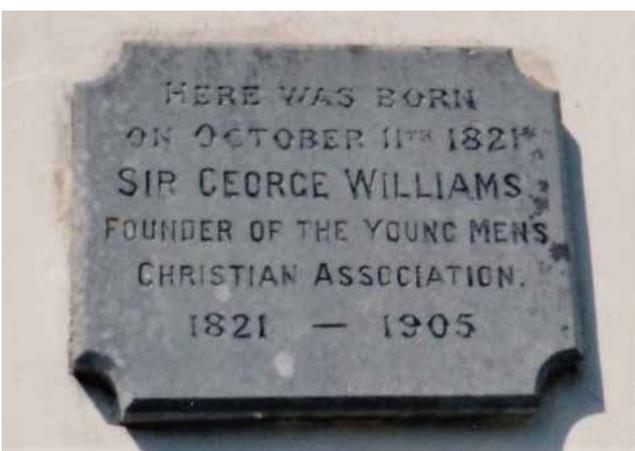
大学生になりリーダーとして活動を始めます。リーダーの時期には、全国少年部リーダー研究会での名古屋代表としての発表（1963年）、東京オリンピック世界青少年キャンプ（1964年。この年のリーダー会長）、名古屋YMCAの青少年センターの開設（1964年）、日韓ユースセミナー（1965年。日韓国交正常化の翌年）など、貴重な体験ができました。青少年センターの開設への働きやリーダー活動での活躍が認められ、東京オリンピック世界青少年キャンプに愛知県の代表として参加しました。世界の国から集まった仲間とオリンピックの観戦や交流会をしました。オリンピック以降社会の国際交流の気運も盛り上がっていました。



日韓ユースセミナーは、第2回の1965年に参加しました。国交正常化の次の年になります。当時は、神戸～小倉～釜山経由の船で韓国へ入りました。2日弱の船旅では、玄界灘の波が激しく、畳の部屋で寝ていてもゴロゴロと転がります。バケツを抱える体調不良の仲間が増える中、1人だけ元気だったことを覚えております。韓国は1週間ほどの滞在で、ホームステイをしながら、ホストファミリーの女の子に様々な場所へ案内してもらいました。38度線も見学に行きました。セミナーが終わってからも手紙のやり取りがあり交流が続きました。



リーダー時代の様々な出来事の体験を通し、人がたくさん集まるとすごいことができる！ということ、その中でコーディネーターの存在の大きさを学びました。キャンプに参加したことで新しい場所に飛び込む経験、チャレンジする体験ができ、新しい場へ飛び込むことを楽しむ、非日常の中で想像していることと違う出来事にどう反応するのか、「自分が何をすべきか」を考え行動する力が付いたように思います。それらの体験のおかげと、好奇心の強い性格もあり社会人になっても常に新しい事業や海外とかかわる仕事が続きました。英語は得意ではありませんでしたが、YMCAで活動していたから、きっと英語ができるだろう、ということで、イギリスの研修に出してもらえたことも幸いでした。



## ▼YMCAとの不思議なつながり

58歳の時に欧州に会社の拠点を作るということで、イギリスに責任者として赴任しました。この時住んだ所がジョージ・ウィリアムスの生家から車で1時間程のところでした。

この生家には何度か訪れましたが、大変な田舎でした。こんな田舎から出てきた人がどうしてYMCAを作ろうと思ったのか、YMCAを改めて考える機会を与えられました。この田舎道を2時間以上かけて小学校まで通ったであろうYMCA創設者ジョージ・ウィリアムス。

改めてYMCAとの不思議な繋がりを感じました。

## ▼今後のキャンプへの期待

以前は中高生の居場所（少年部）があり、小中高とキャリアアップして、リーダーになり、スタッフになっていく流れがありました。社会的な制約もありますが、今は中高生の居場所としてのプログラムが少ないように感じます。今後、連続性のある人材育成や異文化共生社会を体験できるキャンプを期待しております。

### ～1964年の名古屋青年の放談会での吉田さんの言葉～

「大変なのは事実だけれども私たち会員が弱音をはいちゃいかんと思いますね。こういう時こそ「会員運動としてのY」の本当の姿が活かされなくちゃ。新しいプログラムの展開と共にこの点でも大いにハッスルしようじゃありませんか。」

今でも変わらない気持ちで名古屋YMCAを支えていただいております。

### プロフィール

1942年生まれ。中学校からYMCAの少年部活動や英語学校やキャンプに参加し、大学生のときにはリーダーとして活躍。大学卒業後は、自動車部品会社勤務。現在も名古屋グランパスウィズメンズクラブメンバーとして活躍。2015年から行っている名古屋YMCAの学童キャンプでは、1年目から毎年食事スタッフのボランティアとして参加。2021年の東京オリンピックでは、ボランティアとして参加する予定。



【取材:名古屋YMCA 遠藤恵美子】